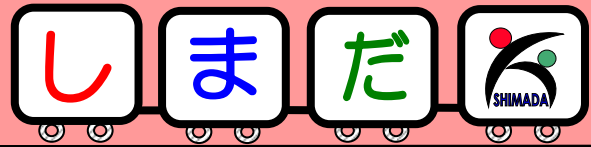


NEW

ネ

ネットワーク



Network Shimada

発行者

島田療育センター  
院長 木実谷 哲史

## 第13回島田セミナー

# 「きょうだい<sup>※</sup> 支援を考える」を開催して

平成29年11月11日に島田療育センター(多摩)医局主催で、第13回島田セミナーを開催しました。このセミナーは、「明日からの診療や生活にすぐに役立つ知識と技術を学ぶこと」を目的に、小児や小児神経に興味のある若手医師や地域の支援者を対象に、年1回厚生棟で開催しています。テーマを小児神経症候学と発達障害に関する内容で決め、外部講師を招致しております。

「きょうだい支援」は、昨年開催した小児在宅支援セミナーのアンケートで「障害児のきょうだいの様子が心配である」という内外からの情報や支援ニーズがあったこと、また、平成29年日本小児神経学会総会(大阪)で、きょうだい関連のシンポジウムが開催され、話題性もあったことから今回のテーマに選びました。

講師は、小児神経科医の宮奈香先生、北里大学看護学部生涯発達看護学助教の古屋悦世先生、島田療育センターに妹さんが入所されている「きょうだい支援を広める会」の有馬靖子代表にお願いしました。3名とも当事者であり、それぞれの立場から実際に感じていることも含め、ご講演いただきました。



宮奈先生は、ダウン症の弟と家族の中で、自分が感じていた疎外感、小児期の心理発達過程できょうだいに起こりうることを、模式図を用いてわかりやすく説明してくださいました。古屋先生は、重症心身障害の兄のこと、思春期にはお友達に説明出来なかったこと、在宅に障害児が戻れることは嬉しいことであるが、紙面で『『きょうだい』も幸せそうである』と報道されることに少なからず違和感があること、病院で幼いきょうだいが病室に入れず待たされる姿、など具体的に教えてくださいました。有馬さんからは、ご自身の経験とアメリカのきょうだい支援の会のドナルドマイヤー氏からの言葉、大人のきょうだいが持ちうる感情・悩み、会の役割について学びました。親亡き後のこと、きょうだいの役割、親に対する気持ちと自分達の人生への影響など、きょうだいの世界観を教えてくださいました。

島田療育センターの長期入所をご利用中の方には、きょうだいが成年後見人を務めていらっしゃる方も増えてきましたし、外来には毎日たくさんのかょうだいが受診に付き添って来院しています。障害児中心になりがちな日常生活の中で、きょうだいが抱えている不安や孤独感に周りの大人たちが寄り添い、配慮することが必要であると思われました。きょうだいもまた、自分の人生をひとりの人として生きていけるように、家庭への情報提供やことば掛けが必要だと、あらためて考える良い機会となりました。

※障害児の兄弟姉妹を「きょうだい」とひらがなで表記しています。

(医務部副部長 小児科 大瀧 潮)

## 第13回 心理講演会を開催しました

去る平成29年10月29日、深まる秋の中、当センター厚生棟にて第13回心理講演会を開催しました。臨床心理科では、強い不安や極度の引っ込み思案を示し、そのことで幼稚園や学校をはじめとする生活の場で参加が難しかったり、安心して楽しく過ごすことができなかつたりするお子さんたちについての相談をお受けすることが少なくありません。そこで今回は、講師に立教大学現代心理学部心理学科長の 大石幸二先生をお迎えし、「家庭や学校、地域でできる不安が強い子どもの理解と支援」というテーマでご講演いただきました。

当日は、ご家族をはじめ、小学校や幼稚園教諭、保育士、学童クラブ・放課後等デイサービス職員、医療・福祉施設職員など、140名がご参加くださいました。講義では、不安が強い状態にある子どもの背景要因について触れたうえで、先生ご自身の臨床実践を通じた支援方法をご紹介いただきました。そして子どもに寄り添い、長期的な視点でサポートしていくことの大切さをお話いただきました。後半では、参加者の皆様からの質問にも、具体的な例を挙げながら丁寧にお答えくださいました。参加後のアンケートでは「とてもわかりやすく、自分の子育て・日々の実践に参考になった」という感想が多く、また、大石先生の子どもと親に対する温かいまなざしや穏やかな語り口に、安心して話を聞くことができたとの声も多かったです。

「いろいろな活動に参加できなかつたり、変化が感じられなかつたりすることで親自身が落ち込んでいたが、失敗して当たり前、スローペースで良いんだと学びました」「子どものことを知りたくて来たのですが、もししたらこれは『自分自身のこと』なのかもしれないと思いました」とのお声もいただきました。支援者として、また親として、ご自身が考え方、関わり方を変えていくことは時に努力を必要とすることがあるかもしれません。今回の講演会が、ひと時生活の場を離れ、子育てや子どもとの関わりを見つめなおす機会となったのであれば嬉しく思います。参加者の皆様、ご協力くださいました関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

(臨床心理科 眞田 恵)



心理講演会 会場の様子



## ライフケア島田あおぞら



「ライフケア島田あおぞら」では、医療的なケアや重度の障害などをお持ちで、ご本人やご家族のご事情により通院が難しい方々に、訪問診療・訪問看護・訪問リハビリテーションを提供しています。

訪問診療では、医師が在宅医療全般に関する管理やお薬の処方、医療処置や生活や病気・障害等に関する相談に対応しています。訪問看護では、看護師がお身体の状態を確認し、日常的なケアや医療的なケアのお手伝いをしたり、ご相談に応じたりしています。訪問リハビリでは、理学療法士(PT)・作業療法士(OT)・言語聴覚士(ST)等が、運動機能や呼吸、食べること、ことばやコミュニケーション(遊び方や関わり方)等に関連したリハビリテーションを提供し、ご相談にも対応しています。



「ライフケア島田あおぞら」のスタッフ

看護およびリハビリは、医師の診察と指示に基づいて実施されるもので、診療も含め、どのサービスもご本人・ご家族とご相談し、おかけの医療機関やその他の関係機関と連携しながら、その方にあった内容をご一緒に考えていきます。

平成29年10月時点の登録者数は34名で、それぞれの方が1つ～複数の訪問サービスを利用されています。(重症児スコアによる)超重症の状態にある方は半数以上、準重症の方は1/4で、在宅人工呼吸器や在宅酸素をお使いの方は約半数、気管切開の方が約半分、経管栄養の方が約95%で、ほぼ全員が日常的に何らかの医療的なケアを要する方です。

「あおぞら」は、ご家庭でのサービス提供だけでなく、当センターの外来診療や通所、短期入所等の様々なサービスを組み合わせたり、他の多様な職種と連携・協力して多面的な関わりがしやすいことが特徴です。またお身体の状態やライフステージに応じて、対応やご支援の内容を再検討したり、地域の関係機関とも連携しながら様々な在宅ケアサービスの使い方を提案する等、退院から在宅生活の安定、その継続に至るまで、その方の状況に応じた役割を担っています。今後は更に地域や行政との協働を密にし、医療・福祉・教育等と連携した支援体制づくりを図ると共に、それらを支え繋ぐ役割として訪問事業がお役に立てればと考えています。

(支援部 社会福祉士 市川 香織)





12月26日(火)に言語聴覚療法科主催の「吃音のはなし」をバルテノン多摩にて開催しました。内容は、保護者向けの吃音に関する講義と、保護者同士の交流会、吃音のあるお子さん同士の交流会を行いました。

保護者向けの講義では、吃音についてのクイズから始まり、知られているようで意外と誤解もある吃音についての正しい知識や吃音のあるお子さんに対する関わりについてお伝えしました。専門的な内容も含む講義でしたが、皆様とても熱心に聞いてくださっていました。参加された方からは、「関わり方の参考になった」「知識を整理することができた」などの感想をいただき、吃音についての理解を深めるとともに、お子さん自身や普段の関わりについて振り返る



保護者向け講義の様子

機会となったようです。#

講義の後に保護者向けの交流会を行いました。小さいお子さんを持つ保護者が、先輩の保護者から家庭での関わりや集団生活の中での対応方法を熱心にお聞きになる姿が見られました。また、同年齢のお子さんを持つ保護者同士では同じような悩みがあるということ共有できたようです。



お子さん同士の交流会の様子

吃音のあるお子さん同士の交流会では、少人数のグループで楽しめるレクリエーションを行いました。名前ビンゴ、工作、風船リレー、パラバルーン、塗り絵などの活動に活き活きと取り組んでいました。特に風船リレーは盛り上がり、たくさんの笑顔が見られました。

今回の講習会は、普段指導にあたっている私共としても、吃音を持つ保護者の方の悩みを間近に聞き、日常生活での具体的な対応方法について学ぶとても貴重な機会となりました。講習会に参加して下さった皆様感謝申し上げます。今後も、さらに多くの方と吃音について学び考える機会を作っていきたいと思います。

(言語聴覚療法科 嶋原礼子)



Q

ことばがはっきりとしません。  
発音を良くするために家でできることは  
ありますか？



A

お子さんが自分の口や舌の動きに注目することはとても難しいことです。直接的に「こうやってやるんだよ」と教えることは、おすすめできません。間接的に、遊びながら口や舌の動かし方を意識できるような関わりが、正しい発音への近道になると思います。

【まねっこ】はお子さんが成長する上でとても大切なことです。発音に関しても、相手の言葉や動きに注目して模倣することは、とても重要です。まずは、大きな体の動きの模倣(ソウやカエルなど)から始め、手遊び歌といった少し細かな動きの模倣遊びを積極的に取り入れてみてください。楽しめるようになったら、アッカンベーやアップップなどの顔の動きの模倣にチャレンジしてみましょう。

次に、【吹く】ことです。シャボン玉や風車で優しく・長く息を吹く、蝋燭の火やラッパの玩具を強く・早い息で吹くなど、パリエーションをつけて経験できると良いでしょう。

次に【食べる】ことです。舌や口を使用することに関連しているところが多いです。お子様が、十分に咀嚼ができているか、食べものをお口の中に詰め込むことが多くないか、確認してみてください。堅い食材で咬む練習をすることもありますが、咀嚼が上手ではないお子さんは柔らかめの食べものだと上手に咀嚼できることもあります。柔らかい煮物などで無理なく咀嚼を促していくこともおすすめです。また、飴をすぐにかんでしまう、ガムをすぐに吐き出してしまうことがあれば、舌を自由に動かすことに苦しさがあるかもしれません。棒付きのペロペロ飴などで、舌を動かす練習をしていけると良いかもしれません。

最後に、発音のせいでお話しすることが嫌いにならないよう、発音ばかりに目を向けるのではなく、お話の内容にきちんと耳を傾けてあげることが大切です。きっと、楽しくたくさんおしゃべりすることが一番の発音の練習になるはずです。

(言語聴覚療法科 白井真奈美)

おしらせ

「第17回 公開シンポジウム」

「重症心身障害児・者施設の未来と私たちが進む道」

～島田療育センターの理念を元に地域・在宅支援のあり方を考える～

国の施策として「施設から在宅・地域へ」という流れが更に推し進められる中、地域の実情に応じた様々なサービスをバランス良く構築することで、またそれを医療・福祉・保健・教育等が連携して包括的に支える仕組みを作っていくことは喫緊の課題です。今回のシンポジウムでは、近年の社会情勢や地域における重症児・者の暮らしの変化、他施設の動き等を知り、わが町が進むべき道や当センターが地域で果たすべき役割を模索・検討する機会にできればと思います。

日時 平成30年 2月18日(日) 13:00～16:30  
場所 島田療育センター厚生棟研修室  
(多摩市中沢1-31-1)

参加費 500円 要事前申し込み  
定員 100名 先着順

基調講演

児玉 和夫 氏

(社会福祉法人三篠会 堺市立重症心身障害児(児)支援センター「ベルデさかい」センター長)

シンポジスト

椎木 俊秀 氏

(社会福祉法人 鶴風会 東京小児療育病院 院長)

河 幹夫

(社会福祉法人 日本心身障害児協会 理事長)

詳細とお申し込み方法はホームページをご覧ください

お問合せ先 支援部 042-374-2101

第3回 ST科講習会

「ことばを育てることばかけ・関わり方  
～ことばを話しはじめるまでの時期を中心に～」

場所 パルテノン多摩 4F 学習室  
日程 H30年3月6日(火) 10:00～11:30 (受付 9:45～)  
対象 ことばが出ていない段階のお子さんやことばの育ちに心配があるお子さんの保護者、(関係者)  
定員 20名(定員に達し次第締め切り)  
参加費 無料  
内容 ことばを話し始めるまでの時期に大切な関わり方、ことばかけ等に関する講義、質疑応答



心理科講習会

「こどもに寄り添う、行動の見方と関わり方  
～やってみようペアレントトレーニング～」

日程 H30年3月13日(火) 10:00～11:45 (受付 9:45～)  
場所 パルテノン多摩 4F 第2会議室  
対象 3～6歳くらいのお子さんの行動や接し方にご不安をお持ちの保護者  
定員 10名(定員に達し次第締め切り)  
参加費 無料  
内容 上手なほめ方、指示の仕方をお話します。また参加者のみなさまからのご質問・ご相談に専門職がお答えします。



地域療育等支援事業のご案内

- ①外来療育等支援事業(療育相談)  
運動面やことばの発達、集団生活にうまくなじめないなどのご相談に応じます。
- ②施設支援一般指導事業  
発達のご心配や障害のある方を受け入れておられる地域施設、機関職員の方を対象にご相談に応じます。
- ③訪問療育等支援事業(訪問相談)  
地域施設や家庭へ赴いて、健康診査や介護指導などを行います。費用は 無料です

島田療育センターイベント情報  
メルマガ会員募集中!

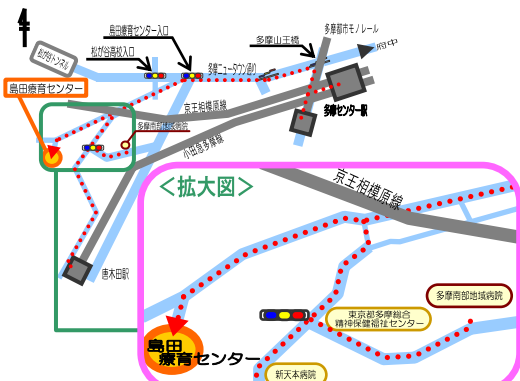


- ①空メールを送信  
QRコードを読み取り、空メールを送信してください。
- ②確認メールに返信  
リクエスト確認メールが届きますので、そのまま返信してください。(Googleグループの機能を利用しているため、Googleからのメールが届きます。)
- ③登録完了!  
参加完了のメールが届き、登録完了となります。

編集後記

数年ぶりに編集に復帰。その間に編集ソフトが変わり、島田の動きも多様になり、浦島太郎状態です。若手に手伝ってもらいなんとか完成。歴代編集者のような季節感溢れるコメントのセンスが無いのですが、忍び寄るインフルエンザの波に怯えながら、時折ふっと春の日差しを感じるとほっとします。元気に春を迎えられますように! (松野)

編集 : 社会福祉法人 日本心身障害児協会  
島田療育センター 支援部  
住所 : 〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1  
電話 : 042-374-2071(代表)  
E-mail : info-room@shimada-ryoiku.or.jp  
URL : http://www.shimada-ryoiku.or.jp



〈徒歩〉  
多摩センター駅下車  
→約20分

〈バス〉  
多摩センター駅  
バスターミナル12番  
乗り場  
「南部地域病院」行き  
→約7分  
終点「南部地域病院」  
下車→徒歩5分